

平成30年度海外視察事業・台湾視察報告

平成30年6月21日(木)～24日(日)の4日間、研修委員会の海外視察事業として、台湾を視察してまいりました。

海外視察事業の目的は、(1)岡山県下中小企業の台湾進出の可能性を探る。(2)中小企業診断士として、海外進出支援、台湾進出支援のスキルアップを図る。(3)日常触れられない日本以外の文化、経済を直に見聞することで、新たなインスピレーションを生む、を掲げました。

視察は、渡台2日目の6月22日(金)に実施いたしました。

【10:00～11:10】



公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所を訪問しました。

台湾と日本は国交がないため、大使館もJETROもありません。それを代替する機能として、「公益財団法人日本台湾交流協会」が存在しています。經濟部主任の相馬様より、「最新台湾概況」と題して台湾経済事情、日本企業進出の最新動向などをお聞かせいただき、質疑応答をいたしました。台湾からの訪日客が年間460万人なのに比べて、日本からの訪台客は年間190万人。台湾人口は2,357万人ですから、本当に多くの方が



日本を訪れていることが分かります。また、「F a

cebook、LINEなど、SNSでの情報発信、情報交換が好きである」「日本語を話せる台湾人がかなり減少している」「台湾人はコスパ重視」「外食メインで自炊しない傾向にある」「兼業が自由である」「2010年以降、日本から多くの飲食業が進出している」「2040年にガソリン車、ディーゼル車の販売禁止を計画している」などのお話も伺いました。

【11:45～12:50】

国立交通大学経営管理研究所兼任助理教授の曾博士と合流し、午後の新北市政府との情報交換会に向けた事前打ち合わせ(ランチョンミーティング)を行いました。

【13:00～15:00】



新北市政府を訪問しました。新北市経済發展局招商科の鐘科長

(日本でいう部長)、黄股長(日本でいう課長)、台日産業推動中心の林組長他、と面会し、下記の次第に沿って情報交換を行いました。

(1) 新北市の一般経済事情について(新北市政府よりご紹介)

(2) 新北市の中小企業支援政策について(新北市政府よりご紹介)

(3) 岡山県の中小企業支援施策について(診断士会より紹介)



(4) 国家資格である中小企業診断士について(診断

士会より紹介)

(5) 今後の相互交流についてディスカッション



台湾には、中小企業診断士制度は存在しておらず、また、台湾でも日本と同じく中小企業は資金面等で課題を抱えており、中小企業診断士という資格にたいへん関心を持たれておられました。

台湾でも日本と同じく中小企業は資金面等で課題を抱えており、中小企業診断士という資格にたいへん関心を持たれておられました。

【15:50~16:30】



日本から出店している台湾アンテナショップ「MiChi

cafe」を訪問しました。

訪問当日、MiChi cafeは東広島市の展示会の最中であり、地元の日本酒の試飲が出来るイベントを開催中で、大勢のメディア関係者で賑わっていました。

岡山からの出展、展示の可能性も感じさせられました。

【17:00~18:00】

岡山から台湾への進出企業である(株)ベネッセコーポレーション台北支社を訪問しました。(1) 台北での事業・業務について、(2) 日本と台湾の違い、そのために事業・業務上配慮・苦心していること、(3) 「このような会社は台湾で失敗する」「このような日本人が台湾での仕事に向いている」、などについてヒアリングをしました。「日本と台湾の文化/労働法制的の違い」「台湾で



の労務や苦勞」「台湾も少子化が進んでいること」、などお伺いしました。



【18:30~21:00】

元(株)ベネッセコーポレーション台北支社長で、台湾で起業されたウィルキューブコーポレーション



馬岡孝行様を交えた懇親会を開催しました。台湾での起業

のきっかけ、その後のビジネス展開などについて、お話いただきました。

【まとめ】

参加者には、今回の視察事業で「久しぶりに海外に行く」という方もおられ、異文化との遭遇に驚きながら、新たなインスピレーションを生み出したものと確信しております。

次回の海外視察事業では、今回生まれた交流をさらに深めるものとするか、また新たな訪問先を発掘するかは未定ではございますが、「引き続き今後も海外での学びの機会を継続していきたい」との研修委員会、参加者の強い思いを感じました。